

新しい岩脈法

Latest methods for inferring stress conditions from dikes and mineral veins

山路 敦^{1*}

YAMAJI, Atsushi^{1*}

¹ 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

¹Div. Earth Planet. Sci., Kyoto Univ.

岩脈群からその形成時における 3 軸の方向を推定する、いわゆる岩脈法が、1970 年代以降あちこちで使われている。1980 年代以降、岩脈たちの方向から 3 本の主応力軸の方向と応力比を推定する新しい岩脈法が開発されている。最近の手法では、平行岩脈群でなくとも、応力が推定できるようになった。すなわち、岩脈の極が等積投影図上で一点集中型のクラスターをなさず、ガードル状でも、また、一様分布に近い場合でも、応力状態を推定できる。今や、主応力軸と応力比を誤差付きで推定することができるのである。また、異なる応力状態でできた岩脈群が混在する場合でも、混在した岩脈たちの方向からそれらの応力状態を識別することができる。本公演では、その発展をレビューし、原理について説明する。最新の方法論は、本セッションで佐藤活志ほかで紹介する。また、天然のデータに適用した例を、山路・星がポスターで紹介する。

キーワード: テクトニック応力, マグマ圧, クラスタ解析

Keywords: tectonic stress, magma pressure, clustering